九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

旧制福岡高等学校蔵書

山根, 泰志
九州大学附属図書館資料整備室図書目録係

https://doi.org/10.15017/20108

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2010/2011, pp.32-41, 2011-08. Kyushu University Library
バージョン：
権利関係：

報告

旧制福岡高等学校蔵書

山根 泰志†

<抄録>
九州大学六本松地区のキャンパス移転により，中央図書館に移設された六本松図書館旧蔵和装本を調査した結果，旧制福岡高等学校の創設期に寄贈された，漢学者・好古家の旧蔵書が含まれていることが判明した．それらの旧蔵者を特定し，各蔵書の概要と特徴を報告するとともに，その存在意義と今後の整理方針を述べる．

<キーワード> 六本松図書館，旧制高等学校，森本儀太郎，高橋楽地，大井七郎，漢学，儒学，中国文学，考古学

Book Collections of Fukuoka Higher School under the Prewar Education System

Yasushi YAMANE

1. 六本松図書館旧蔵和装本の行方

1.1. 六本松図書館の移転

九州大学六本松地区の伊都地区へのキャンパス移転に伴い，六本松図書館は 2009 年 2 月に閉館した．それに先立ち，2008 年 9 月に貴重資料の箱崎地区への移転が行われた．具体的には，旧玉泉館資料・檜垣文庫の古文書類（和装本を含む）は記録資料館（旧保存図書館）に，同じく考古美術資料は総合研究博物館に，濱文庫と洋装本の貴重書は中央図書館貴重書庫に，その他和装本は中央図書館保存書庫に移転された[1].

1.2. 六本松図書館旧蔵和装本の課題

六本松図書館旧蔵の貴重資料中，中央図書館保存書庫に移転された和装本については，ほとんどの資料が NACSIS-CAT へ目録データが登録されていない．そのため，次の箱崎地区から伊都地区への移転を円滑に進めるためにも，他の和装本同様データ登録を進めなければならないが，それ以外にも下記のような課題がある．

１）存在の周知

六本松図書館が所蔵していた貴重資料が多種多様である上，前述のように移転先が分散しているため，どの資料がどこへ移転したのか，正確に把握している人は少ない．特に，和装本については，元々檜垣文庫と濱文庫の影に隠れてしまっていたこともあり，益々存在が忘れられつつある．

写真 1　六本松図書館貴重書庫和装本
（六本松図書館時代に撮影）

２）貴重書の抽出

六本松図書館では，装丁上和装本であれば，近代以降の複製本であっても貴重書庫に排架されており，またそうした比較的新しい本が目立っていたため，実際に貴重書とすべきものは少ないのではないかという印象があった．その上目録データも未整備であり，大量

† やまね やすし　九州大学附属図書館資料整備室図書目録係　E-mail: saden@lib.kyushu-u.ac.jp

の和装本の中から実際の貴重書を選別するのはスケジュール的にも難しかったため，止むを得ず和装本は一括して中央図書館保存書庫に移転された．保存書庫は貴重書庫に比べると保存環境は良いとは言い難く，実際に貴重書とすべきものを早急に抽出する必要がある[2].

３）国書の調査

六本松図書館旧蔵和装本中，漢籍については，前身である教養部分館時代に編纂された『九州大学附属図書館教養部分館漢籍目録』（1971）があり，全国漢籍データベースでも検索可能だが，国書についてはカード目録のみで，独自の目録は刊行されておらず，研究者にはほとんど知られていない．漢籍に比べると数量が少ないとはいえ[3]，貴重な資料も含まれており，その中の奈良絵本については，九州産業大学国際文化学部講師・附属図書館研究開発室特別研究員の田村隆氏によりご紹介いただいた[4]. 他にも貴重な資料が眠っている可能性がある.

４）コレクションの把握

近世以前の和漢古書の整理のためには，資料の性格や由来を把握し，それらに適した整理方法を判断する必要がある．特に個人や家によって収集されたコレクションについては旧蔵者の特定が重要となるが，中央図書館保存書庫に移転された六本松図書館旧蔵和装本のコレクションで判明しているものは，教養部分館時代の 1966 年に受入れられた中学修猷館教師益田古峯の旧蔵書からなる益田文庫のみである[5].

1.3. 本稿の目的

以上の問題意識の下，六本松図書館旧蔵の和装本につき，初歩的な調査を開始したところ，旧教養部の前身である旧制福岡高等学校の創設期に，漢学者・好古家の旧蔵書が寄贈されていることが判明した．本稿では，それらの旧蔵者を特定し，各蔵書の概要と特徴を報告するとともに，その存在意義と今後の整理方針を述べるものである.

2. 旧制福岡高等学校への寄贈書

旧制福岡高等学校（以下福高）は，旧六本松地区に 1921 年 11 月から 1950 年 3 月まで存在し，その後は九州大学第一分校，九州大学分校，九州大学教養部へと変遷した[6]．1922 年 4 月，初代図書課長として武藤長平教授（漢文）が任命され，同年 7 月に書庫が，翌 1923 年 8 月に講堂及び図書閲覧室が竣工した[7].

写真 2　1935 年頃の福岡高等学校図書閲覧室
（大学文書館所蔵）

図書の受入は，1922 年 2 月から始まっており，1947 年までに和書 24,974 冊，洋書 9,060 冊，計 34,034 冊収集されている[8]．それらは，書店から購入した図書以外に，福高関係者等から寄贈された図書により成り立っている.『福岡高等学校図書原簿』により，主な寄贈書をまとめたのが表 1 である.

表 1　福岡高等学校への寄贈書一覧

年	寄贈者	内容	冊
1923, 1925	伊東政勝(学生[9])	仏文	156
1923	武藤長平(漢文教授・初代図書課長)	人文系	44
1925, 1927	橋本洋(学生) 橋本ユク	漢籍等	343
1926	高橋求身(高橋楽地孫)	漢籍等	698
1926	大井ウメ(大井七郎室)	漢籍・法学・歴史	795
1928	赤野法香(物理教授)	仏文	15
1931, 1934	時実秋穂(第 11 代福岡市長[10])	朝鮮本・参考図書類	149
1931	ライントエス(独語教師)	独語図書	49
1935, 1942	秋吉音治(初代校長)，秋吉格	人情本・哲学・書軸	178
1937	樋田豊太郎(法制及経済教授)	社会科学	362
1941	ボークラン(仏語教師)	仏文	20
1942	昭和 16 年度卒業生一同	哲学	23
1942	昭和 17 年度卒業生一同	哲学	47
1942	独逸大使館(独逸文庫[11])	独語図書	78
1943, 1944	山本鱗太郎	科学・孔子家語	51
1943	穴山孝道(国語教授)	仏教	68
1943	福岡高等学校同窓会(秋吉文庫[12])	全集・参考図書類	333
1943	堀川元祐(学生)	英文	37

1943, 1944	玉泉大梁(歴史教授･第 7 代図書課長)	考古	112
1944	吉村貞雄	四書大全	48
1945	不破美太郎(数学教授・第 6 代図書課長)	数学	248
1945	折竹錫(第三代校長)	仏文	269
1946	海軍兵学校防府分校	歴史	53
1948	野村梅吉(独語教授･第 8 代図書課長[13])	独文	285
1949	U.S.A	英語図書	255

いずれも千冊に満たない小規模な寄贈ながら，福高を去る，あるいは在職中・在学中に亡くなった人への記念としての性格を持つものが多く，様々な人々の福高に対する想いを表すものといえるだろう．いくつか文庫や記念図書の印が捺されているものがあるが，別置されているものはなく，全て混排である．

これらの中で，和漢古書を多く含むのが，橋本洋（橋本ユク），高橋求身，大井ウメの諸氏からの寄贈書である[14]．これらは福高創設期にまとめて寄贈されており，その蔵書の基盤となったという点でも重要だが，規模は比較的小さいといっても，これだけのまとまった和漢古書を収集した人物がいるということである．実際に図書を収集した人物が亡くなった後に，遺族等が寄贈するということはよくあるため，寄贈者が収集者と同じであるとは限らない．コレクションの性格の把握のためには，まず旧蔵者を特定する必要がある．

以上の観点から，これら福高創設期にまとめて寄贈された蔵書群につき，蔵書の構成，蔵書印や奥書等図書そのものに残された旧蔵者の痕跡，寄贈者の身元等を手がかりに旧蔵者を特定した．以下，蔵書ごとに，『福岡高等学校図書原簿』に基づく受入の概要，旧蔵者の特定方法，旧蔵者の略歴，代表的な貴重書，その他特記すべきこと等をまとめた．

3. 森本儀太郎旧蔵書

3.1. 受入概要

受入日：1925 年 10 月 15 日
数量：64 部　319 冊
寄贈者：橋本洋
【追加分】
受入日：1927 年 2 月 16 日・3 月 2 日
数量：3 部　20 冊　『四書両家粋意』3 冊分追加
寄贈者：橋本ユク
【未受入分追加[15]】
受入日：1942 年 10 月 5 日
数量：『宋学士文粋』1 冊分追加

総計：67 部　343 冊

3.2. 旧蔵者の特定

まず，ほとんどの図書に捺されている「朴庵蔵書」の蔵書印と，奥書の「森本一徳」の名前から，旧蔵者の姓は森本，名は一徳，号は朴庵であることが推定された．次に，蔵書の内容は漢籍中心で，平戸藩家老葉山佐内や藩主松浦侯から賓師の礼を受けた朝川善庵の著述（『儲保軌鑑』・『楽我室遺集』）が収蔵されていること，平戸藩儒楠本碩水や第 9 代藩主松浦静山の旧蔵書（『新増唐賢三体詩法』・『四書両家粋意』）が収蔵されていることから，平戸藩の漢学者であることが推定された．さらに，寄贈者の橋本洋氏が長崎県佐世保中学出身であることから，『佐世保市史』通史編下巻（佐世保市，2003）を見ると，日宇村（現佐世保市）の元平戸藩士･小学校教師森本儀太郎の名前が見出された．そして，日宇の郷土史家徳永繁氏（しげし）（1900-1981）の遺稿『日宇郷土史「干海」』（ひうみ会，1993）の森本儀太郎についての詳細な記述により，森本一徳（朴庵）＝森本儀太郎であることが確定した．旧蔵者の特定に至ったのは，郷土史の探求に情熱を注がれた故徳永繁氏と，その志を継いで日宇の歴史文化遺産の存続のために森本儀太郎碑周辺清掃をはじめとする活動を続けてこられたひうみ会の皆様のおかげである．

3.3. 森本儀太郎の略歴

以下，『日宇郷土史「干海」』をもとに略歴を述べる．森本儀太郎（1838-1888）は，平戸藩士森本一成（通称酒造三郎，号は素杖）の子として江戸本所に生まれる．名は一徳，字は立功，号は朴庵・敬養斎．祖先は代々平戸藩主松浦家に仕え，平戸城下に住んだが，祖父の森本一孝は第 11 代藩主松浦曜の命により住家を江戸本所に建て，それから江戸常府となった．

写真 3　森本儀太郎
（佐世保市立日宇小学校所蔵）

なお，平戸藩の森本家といえば，寛永 9 年（1632）にアンコール・ワットに墨書を残した森本一房が著名であり[16]，その子孫が松浦家に仕えていたことも松浦静山の随筆『甲子夜話』に見えるが，今の所関係は不明である．

儀太郎は，幼い時から読書・習字を好み，市河米庵に書を，朝川同斎・大橋訥庵に漢学を学び，かたわら剣道・槍術を修行した．平戸に帰国後，御書物掛・御直筆御代筆を命ぜられた．廃藩後に藩職を辞した後は，日宇義塾，日宇小学校，佐世保小学校等で子弟の教育にあたった．明治 21 年（1888），授業中に病に倒れ，52 歳で没した．明治 23 年（1890），門人たち[17]は，儀太郎の徳と功績を永遠に伝えるため，松尾山上の清浄の地に記念碑を建てた．

儀太郎の墓は両親と重子夫人の墓とともに佐世保市大和町にあり，大和町の皆様，門人の子孫の皆様の手で祀られている．

3.4. 橋本洋氏と森本儀太郎の子孫について

寄贈者の橋本洋氏は，1924 年に福高に入学，翌年 9 月に玉泉大梁教授（1886-1971）の指導の下考古学研究会を設立し，1930 年設立の玉泉館（歴史地理参考室[18]）の基礎を作った．また，世界各国の貨幣や土器等の考古資料を玉泉館に寄贈している．卒業後，東京帝国大学経済学部に進んだ後，東京の中央放送局に就職したが，早世した．橋本洋氏が森本儀太郎の旧蔵書を寄贈した経緯は現在の所不明である．

儀太郎のご令孫森本一善氏は，1945 年 2 月の硫黄島戦に陸軍軍医中尉として参加し，『硫黄島玉砕に祈る』（白鬚会，1966）の著がある．三浦市医師会初代会長をつとめるなど，医師としてご活躍され，1998 年に亡くなられている[19]．

3.5. 代表的な貴重書

明・賈如式編『四書両家粋意』（万暦 11 年序刊）は，明代の四書の註釈『蒙引』『存疑』の説を後学の便のためにまとめたものである．管見の限り，国内や中国では端本のみしか確認できず[20]，他に揃い本を所蔵している機関は米国プリンストン大学東アジア図書館のみである[21]．九大本には，尾張藩の国学者神村正鄰（1728-1771）・忠貞（1740-1781）父子の印（「尾藩神邨恭敬斎蔵」・「神邨忠貞」・「篤卿」）が捺され，松浦静山（1760-1841）の印（「子孫永宝」「平戸藩蔵書」「楽歳堂図書記」）が別の紙に捺して表紙に貼り付けられており[22]，伝来の過程も興味深い．

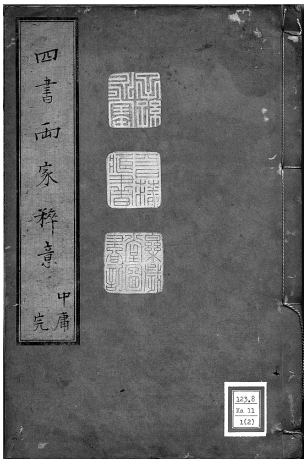

写真 4　『四書両家粋意』

3.6. 写本と資料状態について

儀太郎は，「凡そ書を読む者は須く自ら写して之を読むべし」と常に語り，その蔵書のほとんどは手写しであったという．九大所蔵本の写本を見ると，三宅尚斎述・小川晋斎補『大学筆記』（慶応 3 年森本一徳写）・三宅尚斎『近思録筆記』（慶応 3 年森本一徳写）・大橋訥菴『大学講義』・若林強斎『家礼訓蒙疏』・浅見絅斎『喪祭小記』・伊藤東涯『用字格』と，確かに装丁や筆跡から全て儀太郎自筆の可能性が高いが，6 部しかない．このことは，全体の数量が比較的少ないことも併せて，九大所蔵本が儀太郎旧蔵書の全てではないことを示唆している．6 部中，崎門（山崎闇斎学派）写本が過半を占めていることは，儀太郎が本来所蔵していた写本も，崎門写本がほとんどであった可能性がある．

また，全体的に虫損が甚だしいものが多く，既に 1928 年に汚損により控除（除籍）されているものが 4 部 13 冊ある．

4. 高橋楽地（らくち）旧蔵書

4.1. 受入概要

受入日：1926 年 3 月 20 日
数量：95 部　698 冊
寄贈者：高橋求身（もとみ）

4.2. 旧蔵者の特定

蔵書の内容は漢籍が中心で，多くの図書に福岡図書館のラベルが貼付されており，福岡市の出雲大社教福岡分院の境内に存在した私立福岡図書館（1902-1917）[23]に一時寄託されていたことがわかり，旧蔵者は福岡の漢学者であることが推定された．さらに，蔵書印の「高橋氏図書記」・「高橋知郷」・「楽地」から，『福岡県碑誌』筑前之部（大道学館，1929）により，高橋楽地という漢学者が見出された．

4.3. 高橋楽地の略歴

以下,『福岡県碑誌』筑前之部に掲載された高橋楽地墓誌（碑は福岡市妙安寺にあり）により，略歴を述べる．高橋楽地（1809-1874）は，福岡藩士高橋武経の子として生まれる. 名は知郷, 通称は市之進, 字は子操, 号は楽地または星共．高橋家は代々御料理方として藩に仕えた[24].

楽地は幼い時から学を好み，文章と書に長じ，かたわら剣法を修めた．天保 12 年（1841），父の業を継いだ後，嘉永 6 年（1853），藩学修猷館の訓導となり，またその仁愛教育の厚きを慕い家塾にも弟子が満ち，多くの傑出の士を育てた．明治 7 年（1874），病により 66 歳で没した.

4.4. 代表的な貴重書

福高時代に貴重書に指定されているものに,『春秋左伝註疏』（汲古閣本），明・張溥纂『四書註疏大全合纂』（宝翰楼本），明・凌稚隆編『五車韻瑞』があり，いずれも明末清初期の刊本である.

写真 5　『四書註疏大全合纂』

4.5. 福岡図書館寄託の楽地旧蔵書

前述の私立福岡図書館の旧蔵書は，中央図書館に廣瀬文庫として所蔵されている．廣瀬文庫には，福岡図書館時代の目録である『福岡図書館図書目録』（明治末年）が所蔵されており，寄託図書は，書名の下に寄託者の頭文字等が朱書きされている[25]．寄託されていた楽地の旧蔵書には「タ」という朱書きがあり，それをもとに書名を抽出すると，多くが九大所蔵の楽地旧蔵書の書名と一致するが，一部一致しないものがある．それを福岡図書館の分類ごとに抽出すると，次のようになる.

【修身】　『女誡』1 冊
【経書】　『易経』2 冊,『論語語由』9 冊,『経伝釈詞』5 冊
【儒書】　『劉向説苑纂註』10 冊,『古学捷録』4 冊
【国文和歌】　『怜野集』12 冊
【漢文詩】　『尺牘双魚』4 冊,『白少伝詩鈔』4 冊,『詩轍』6 冊,『高青邱詩集』5 冊,『月瀬記勝』3 冊,『扶桑遊記』2 冊,『韋蘇州集』5 冊
【文法】　『法朗西文典』2 冊,『法朗西文典字類』1 冊
【本邦歴史】　『日本書紀通証』5 冊,『古事記伝』10 冊,『古訓古事記伝』3 冊,『国号考』1 冊
【紀行】　『京城勝覧』1 冊
【本邦法律】　『令義解』10 冊,『禁秘抄』3 冊
【音楽唱歌】　『謡曲内外二百番』8 冊
【類書】　『日本水土考』1 冊
【叢書】　『肉蒲団』4 冊

計 24 部 121 冊あり, やはり九大所蔵本が楽地旧蔵書の全てではないことを示すと同時に，本来より多様な蔵書構成であったことを窺わせる.

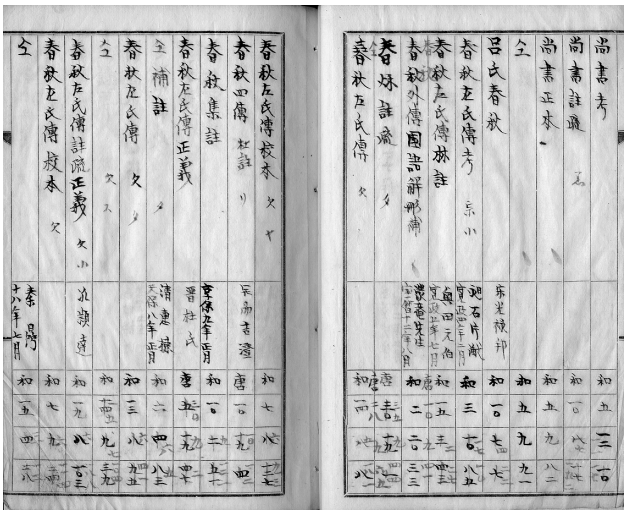

写真 6　廣瀬文庫『福岡図書館図書目録』

4.6. 旧玉泉館資料の高橋文書

『福岡高等学校玉泉館蔵古文書目録』其三古文書之部には，高橋求身氏寄贈の筑前国郡図 10 葉（志摩郡之図，御笠郡之図，宗像郡之図，鞍手郡之図，下座郡之図，穂波郡之図，上座郡之図，糟屋郡之図，夜須郡之図，嘉摩郡之図）と林子平『三国接壤之図』（『三国通覧輿地路程全図』，写）が「高橋文書（地図）」として記載されており, 福高に寄贈された楽地旧蔵書のうち，地図類は玉泉館に寄贈されたことがわかる．筑前国郡図は玉泉館が所蔵する代表的な古地図としてしばしば言及されており[26]，福高創立十周年記念近世法制経済社会史料展覧会にも出品されている[27].

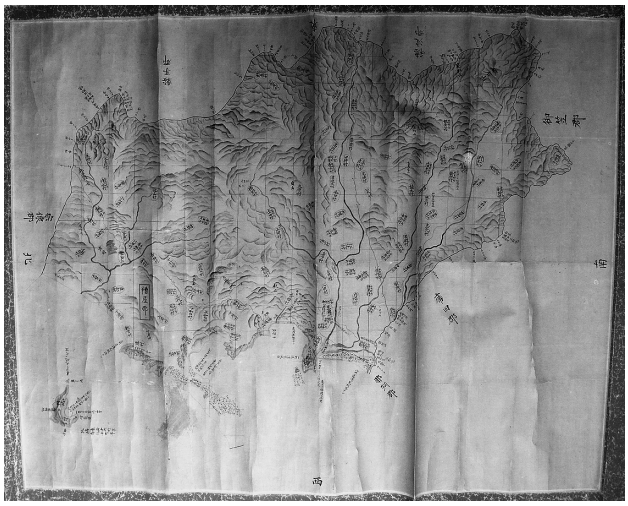

写真 7　糟屋郡之図（記録資料館所蔵）

5. 大井七郎旧蔵書

5.1. 受入概要

受入日：1926 年 10 月 1 日
数量：和書 241 部 741 冊　洋書 45 部 54 冊
　　計 286 部 795 冊
寄贈者：大井ウメ
貴重書以外の洋装本は伊都図書館に排架

5.2. 旧蔵者の特定

蔵書の内容は，漢籍，特に漢詩や小説等の文学が中心である. 他にも山口と沖縄関係の郷土資料が含まれ，後述する『時宜帖』は松山藩関係の文献であった．また，大井ウメ氏によって玉泉館に寄贈された考古資料には沖縄・鳥取出土のものが多く含まれていた．法学関係書も多数含まれていたため，旧蔵者は各地を転々とする官吏か法曹で，副業あるいは趣味で考古美術品収集や漢詩を嗜んでいた人物であろうと推定された．さらに，旧蔵者自身が厚紙等で製本した図書が多数含まれていることに気づき，その中から那覇地方裁判所検事局の用紙と「大井七郎」の印を発見した．大正時代の法曹界の人名録である『帝国法曹大観』（帝国法曹大観編纂会，1915）が蔵書中に含まれており，その中に鳥取地方裁判所検事正で，過去に山口・松山・那覇に在住していた大井七郎の名前を見出すことができた．

5.3. 大井七郎の略歴

『帝国法曹大観』と『現代防長人物史』（発展社, 1917）により, 略歴を述べる. 大井七郎は, 明治元年（1868），大井又平の子として山口県山口町（現山口市）に生まれる．兄に陸軍大将・貴族院議員にまで昇った大井成元（1863-1951）がいる．弱冠の頃までは漢学を学び，明治法律学校（現明治大学），和仏法律学校（現法政大学）卒業後，判事検事登用第 1 回試験に及第し，松山，西条，広島，松江，赤間関，那覇，鳥取等の裁判所の検事を歴任した．その間明治末期に世間を震撼させた愛媛出身の怪盗池田亀五郎の実録である『池田亀五郎犯罪志』（松翠堂，1910）を著している．

1918 年に退職した後は[28],「日本歴史地理学会会員名簿」（1918 年 11 月）によれば，福岡市枡木屋町（現唐人町）に居住している．同学会『歴史地理』の会報の会費領収報告に名前が見えるのは 1920 年までであり，旧蔵書中の所蔵雑誌の年次もこの頃に止まっているので，この年から間もなく亡くなったものと思われる．

なお，寄贈者の大井ウメ氏は夫人である．二女の勝千代は，遠賀郡出身で戦前の三井財閥を背負った財界の実力者金子堅次郎（1887-1974）に嫁いでいる．

写真 8　大井七郎
（『帝国法曹大観』より）

5.4. 代表的な貴重書

『時宜帖』は，天保 15 年（1844）に，松山藩の崎門学者村田箕山（名は常武，1787-1856）の時宜亭に集った文人達の寄書帖である．1 冊目は「石秩積雪」「石水杜鵑」「横谷秋月」「望田落雁」「石手晩鐘」「湯山朝霞」「一木夜雨」「砂堤千種」の八景を題に，2 冊目は「遥峯晴雪」「卯路紅葉」「遠寺桜花」「平田落雁」「東山秋月」「厩坂夕照」「北嶺急雨」「松陰清風」の八景を題に，松山藩家老奥平鶯居（俳諧の宗匠，1809-1890）をはじめとする文人達がそれぞれ詩・歌・句・画を寄せている．江戸後期における松山の文化の集成というべき貴重な資料である．

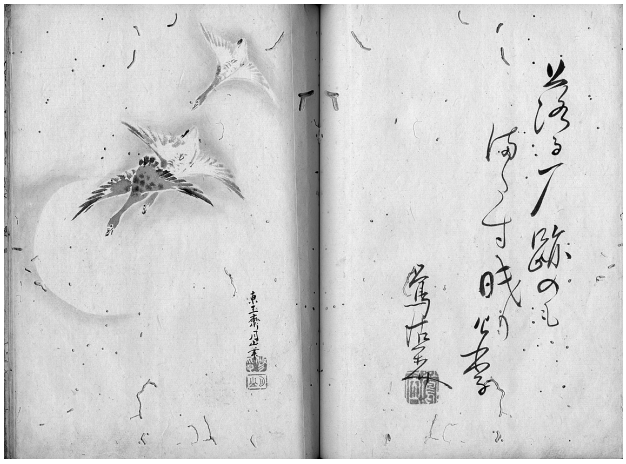

写真 9　『時宜帖』

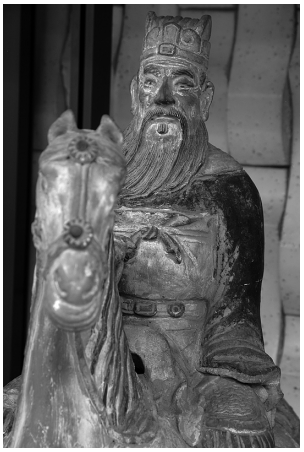

写真 11　騎馬男子像　　写真 12　半円方形帯神獣鏡
（六本松図書館時代に撮影）

5.5. 旧玉泉館資料の考古美術資料

総合研究博物館の考古・人類先史データベース[29]によれば，旧玉泉館資料には，大井ウメ氏寄贈の考古美術資料が 587 件所蔵されている．内容は，中国俑，古銭，青銅鏡，十手等，多岐に渡り，考古資料では鳥取・沖縄・東北地方出土のものが特に多く，韓国慶尚南道咸安出土の土器[30]も含まれる．騎馬男子像の明器等，六本松図書館時代に常設展示されていた馴染み深いものも多く含まれており，多様性に富む玉泉館を象徴するコレクションである[31]．

他にも，『福岡高等学校玉泉館蔵古文書目録』其三古文書之部には，大井ウメ氏寄贈の「旧時織物標本」が「大井標本」として記載されている．

写真 10　福岡高等学校玉泉館
（創立十周年記念考古資料絵葉書）

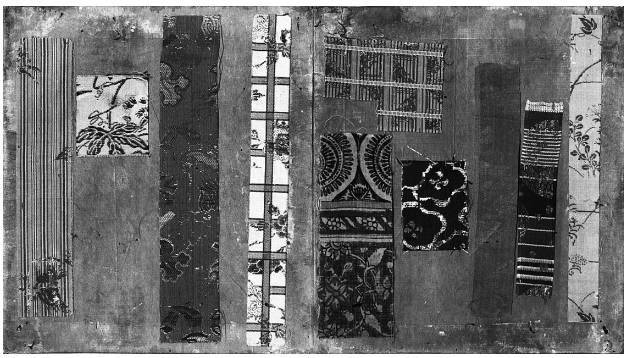

写真 13　旧時織物標本（記録資料館所蔵）

コレクションから見れば，大井七郎は好古家・収集家というべき人物だったようだが，『現代防長人物史』には，そうした面は全く触れられていない．個々の資料の評価のためには，それらをどのような経緯・手段で入手したのかを探る必要がある．詳細な人物像の解明が今後の課題である．

6. 蔵書群の意義

以上３人の旧蔵書は，規模としてはそれほど大きくないとはいえ，福高の創設期に寄贈され，その教育・学習活動の基盤となった．今や彼らの名は忘れられ，福高の歴史においても語られることはないが，その蔵書がもたらした影響は計り知れないものがあるだろう．

また，九州大学には，森本儀太郎の旧蔵書と関係の深い碩水文庫[32]や近藤文庫[33]等が所蔵されており，高橋楽地の旧蔵書と関係の深い廣瀬文庫と逍遥文庫も所蔵されている．また，濱文庫は，教養部分館時代に受入れされた中国戯劇関係のコレクションであり，旧六本松図書館を代表する文庫の一つであるが[34]，大井七郎の旧蔵書は，濱文庫受入以前に存在した中国文学関係の刊本を多く含むコレクションであり，その意味で旧六本松図書館を特徴づけるものとなっている．これら

関係の深い文庫が同じ図書館に収蔵されていることは意義深いことであり，コレクション全体の価値が高まるだけではなく，地域と九州大学との結びつきをより強くするものと期待される[35].

大井七郎のコレクションが象徴するように，図書以外の考古美術資料・古文書類が玉泉館に収蔵されるというのは福高独特である．実は玉泉館には，中央図書館所蔵支子文庫[36]の旧蔵者で福高の国語教授田村専一郎（1887-1975）旧蔵の古文書・古地図類や，同じく中央図書館に自筆稿本類[37]が所蔵される国学者江藤正澄（1836-1911）旧蔵の古文書・考古資料等が収蔵されている．一人の人物が収集した図書・考古美術資料・古文書類を総合的に検証することで，人物像やコレクションの再評価が可能となる．とりわけ大井七郎のように人物像が不明確な人物ほど，そうした検証が重要となってくるだろう．

7. 今後の整理方針

今回判明した旧蔵書群は，文庫として扱われた形跡はないが，旧蔵者と蔵書の内容には見るべきものがあり，何よりも福高を代表するコレクションとして顕彰すべきなので，それぞれ「朴庵文庫」「楽地文庫」「大井文庫」と名づけ，帙等にラベルを貼付し，別置している．六本松キャンパスの解体作業が進む中，かつての福高を偲ぶものは益々なくなりつつある．福高の旧蔵書は，分散して残っているが，まとまって置かれているわけではない．これらの文庫群は，大井文庫の洋装本を除いて中央図書館に集まっており，貴重書以外はまとめて別置しているので，福高を偲ぶことができる数少ない象徴となるだろう．

目録については，朴庵文庫・楽地文庫は，「九州大学所蔵コレクション目録データベース」[38]にてカード目録に基づく簡易目録を公開し，大井文庫や旧玉泉館古文書についても同様に公開する予定である．また，NACSIS-CAT への目録データ登録も随時進めている．

8. おわりに

調査を進めていくうちに気づいたことは，どのような本でも，旧制福岡高等学校が所蔵していたというだけで，不思議な魅力を感じることである．今はなき旧制高校が持つ独特の郷愁もあるだろうし，貴重書にも遠慮なく捺された必要以上に大きい蔵書印（写真 4 参照）が，バンカラのイメージと重なるというのもあるだろうが，その世界を実際に経験していない人間をも惹きつける何かがあることは間違いない．これらの本に，寄贈した人たちの意思や，収集した旧蔵者の人生を感じることで，益々かけがえのないものになっていくと思う．

〔附記〕今回の調査にあたっては，下記の皆様に大変お世話になった．記して御礼申し上げる次第である．

岩﨑義則准教授（人文科学研究院）
折田悦郎教授（大学文書館）
梶嶋政司助教（記録資料館）
門田正英氏（妙安寺御住職）
佐世保市立日宇小学校
高橋台二氏（高橋楽地御曾孫）
田村隆氏（九州産業大学国際文化学部講師）
徳永壽昌氏（ひうみ会）
附属図書館の皆様

（以上五十音順）

参考文献

[1] 『帝国法曹大観』帝国法曹大観編纂会，1915
[2] 『現代防長人物史』発展社，1917
[3] 『福岡県碑誌』筑前之部，大道学館，1929
[4] 『福岡高等學校學而寮史』福岡高等学校学而寮，1949
[5] 秋山六郎兵衛『不知火の記』白水社，1968
[6] 作道好男，江藤武人編『ああ玄海の浪の華』財界評論新社，1969
[7] 玉泉大梁『室町時代の田租』吉川弘文館，1969
[8] 『九州大学附属図書館教養部分館漢籍目録』，1971
[9] 『青陵：思い出の記』青陵会，1972
[10] 城戸八洲編『伊豫偉人録』復刻版，西山正志，1978
[11] 『福岡県百科事典』西日本新聞社，1982
[12] 『修猷館二百年史』修猷館二〇〇年記念事業委員会，1985
[13] 樋田並滋『樋田豊太郎伝』，1991
[14] 徳永繁『日宇郷土史「干海」』ひうみ会，1993
[15] 『人生旅路遠けれど：創立八十周年記念』青陵会，2002
[16] 『ありがとう六本松図書館―九大生の学びを支え続けて―』九州大学附属図書館，2009
[17] 『青春群像さようなら六本松』花書院，2009
[18] 『ふるさと歴史めぐり』第 4 版，佐世保市教育委員会，2010
[19] 『九州大学百年の宝物』丸善プラネット，2011

---

[1] 田中由紀子「六本松キャンパスの移転について」（貴重文物講習会第 36 回，2010）.

[2] 『全国国立大学所蔵貴重図書目録』（広島大学附属図書館，1973）の 220p に教養部の貴重書が記載されているが，実際は旧制福岡高等学校時代に貴重書に指定されたものだけであり，第一分校時代以降に受入れた貴重書は含まれていない．この目録に掲載されていない貴重書では，例えば，宋版本『仏説仁王護国般若波羅密経』（三聖寺旧蔵・頼山陽識語）がある．この書は，『九州大学附属図書館教養部分館漢籍目録』にも記載されているが，仏書のためか今まで注目された形跡がない．今後もこのような貴重書が発見される可能性がある．

[3] 1981 年，国文学研究資料館から依頼された『古典籍総合目録』作成に係る所蔵資料の調査についての教養部分館の回答によれば，和古書は 368 冊となっている（実際にはこれより多い）．なお，檜垣文庫を除き，六本松図書館旧蔵国書は現在のところ「日本古典籍総合目録」には収録されていない．

[4] 田村隆「口絵・解説」（『文献探究』49，2011）．また，『文正草子』については，「日本古典籍画像データベース」にて公開している．
URL: http://mars.lib.kyushu-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000002rare2

[5] 益田文庫については，柴田篤「益田古峯小伝―九州大学「益田文庫」の旧蔵者―」（『中国哲学論集』34，2008），同「益田文庫―漢詩を能くした漢文教師の旧蔵書―」『九州大学百年の宝物』（丸善プラネット，2011）参照．

[6] 折田悦郎「旧制福岡高等学校と新制九州大学教養部」『青春群像さようなら六本松』（花書院，2009）参照．

[7] 「教養部図書館の沿革（その１）」（『図書館情報』4(11)，1968）参照．

[8] 「教養部図書館の沿革（その 2)」（『図書館情報』5(1)，1969）参照．

[9] 図書の最終頁に，「故伊東政勝君記念図書之印」が捺されている．伊東氏は，『福岡高等学校一覧』第一年度（自大正 11 至 12 年）によれば文科丙類の学生であり，間もなく亡くなったようである．

[10] 時実秋穂（1881-1962）は，1926 年から 1930 年まで福岡市長をつとめ，その間博多港の第 2 種重要港湾昇格や東亜勧業博覧会の開催を実現した．寄贈書中，高麗末の鄭夢周（号圃隠）の詩文集である『圃隠先生文集』と李氏朝鮮中期の趙光祖（号静庵）の詩文集である『静庵先生文集』の朝鮮刊本が特に貴重である．それぞれの表紙に記された京畿道龍仁郡守徐廷岳の由来書きによれば，1924 年，大正天皇が皇太子の成婚を記念して、鄭夢周・趙光祖の廟に祭粢料を下賜することになり，その使者となった時実（当時朝鮮総督府京畿道知事）に，鄭・趙の宗孫が贈呈したものである．なお，『圃隠先生文集』は，第 38 回中央図書館貴重文物展観「中世の博多と東アジア」（『大学広報』868，1997）や 2005 年に国立歴史民俗博物館等で開催された「東アジア中世海道―海商・港・沈没船」展に出品されている．

[11] 図書の標題紙に「福岡高等学校独逸文庫之印」の文庫印が捺され，背に「独逸文庫/図書」のラベルが添付されている．

[12] 図書に，「秋吉文庫之印/紀念図書」の印が捺されている．秋吉文庫については「秋吉文庫之碑」（『九大学報』1234，1986）参照．在職中亡くなった初代校長秋吉音治（1876-1937）を偲び，その功績を記念する事業で募った基金で購入した図書のため，実用的な全集・シリーズ・参考図書類が中心だが，明・曹胤昌撰『冊府元亀独制』のような貴重書も含まれている．なお，秋吉旧蔵の人情本類や顔真卿書石刷掛軸等は別途寄贈されている．

[13] 図書に，「野村梅吉教授/記念図書」の印が捺されている．野村は，戦災で家を焼き，寮で生活中，1947 年 5 月に亡くなった．

[14] 『九州大学附属図書館教養部分館漢籍目録』のはしがきで，教養部分館長濱一衛（濱文庫の旧蔵者）は，多くの漢籍を寄贈してくれたことへの感謝の意を表すために，これらの寄贈者の名前をあげている．

[15] 寄贈者は橋本洋氏になっているが，橋本氏はこの時亡くなっている．追加の寄贈があったのではなく，単に受入し損ねた図書が見つかっただけだろう．

[16] 清水潤三「アンコール・ワットにのこされた森本一房の墨書について」（『史学』44(3)，1972），石澤良昭「1632 年にアンコール・ワットを訪れた森本右近太夫一房の消息」(『三笠宮殿下米寿記念論集』刀水書房，2004）参照．

[17] 門人の中には，楠本碩水門下で漢口日報社社長に就任するなど中国で活躍した岡幸七郎（岡次郎の弟，号西門，1868-1927）や，天然記念物「カネコシダ」を発見した金子保平（1869-1935）がいる．

[18] 玉泉館については，溝口孝司「旧玉泉館収蔵考古資料」（貴重文物講習会第 4 回）参照．
URL: http://hdl.handle.net/2324/8757

[19] 『神奈川県医師会史』第 3 巻（神奈川県医師会，2002）・『日宇郷土史「干海」』（前掲）参照．

[20] 岩坪充雄「新刻四書両家粋意」（『東隅随筆』171，2005）に端本が紹介されている．

[21] 目録と公開されている巻頭画像によれば，校正者も刻工も異なるので異版のようである．

[22] 人文科学研究院岩﨑義則准教授より，このような蔵書印の貼り方は松浦静山の蔵書にはよく見られるとのご教示を頂いた．松浦静山の蔵書については，岩﨑義則「大名蔵書の中の国際交流―平戸藩楽歳堂の蔵書目録から―」（『東アジア世界の交流と変容』九州大学出版会，2011）参照．

[23] 私立福岡図書館については，筑紫豊「私立福岡図書館館史」(『図書館学』6，1958）参照．

[24] 蔵書中に向井元升『庖厨備用倭名本草』・香月啓益『巻懐食鏡』等の食物の本草本が含まれている．

[25] 例えば，中央図書館所蔵逍遥文庫は，福岡の漢学者宗逍遥（1824-1904）の旧蔵書であり，楽地旧蔵書同様，一時福岡図書館に寄託されていたが，『福岡図書館図書目録』の逍遥旧蔵書には，「宗」という朱書きがある．拙稿「廣瀬文庫―私立福岡図書館旧蔵書」『九州大学百年の宝物』（前掲）参照．

[26] 玉泉大梁「玉泉館の記」（『九大教養部報』18，1966），西尾陽太郎「玉泉館―九大教養部歴史資料展示室」『図書館情報』4(11)，1968）等．

[27] 同展覧会目録参照．
URL: http://hdl.handle.net/2324/17920

[28] 「検事大井七郎賞与ノ件」（国立公文書館所蔵『公文雑纂』大正七年巻三内閣三）参照．

[29] URL: http://database.museum.kyushu-u.ac.jp/search/kouko/index.html

[30] 白井克也「九州大学考古学研究室所蔵古新羅土器II―追加資料の提示と回転技法に関する考察―」（『古文化談叢』38，1997）参照.

[31] 小林茂・藤尾慎一郎「教養部玉泉館資料の移転について」（『九大教養部報』93，1988）にも，玉泉館資料を代表する資料として大井ウメ氏寄贈の和鏡が紹介されている.

[32] 碩水文庫については，柴田篤「碩水文庫余滴―楠本正継教授と九州大学附属図書館―」（『中国哲学論集』33，2007），同「碩水文庫―宋明儒学と崎門写本の宝庫―」『九州大学百年の宝物』（前掲）参照．旧蔵者の楠本碩水（1832-1916）は，日宇から程近い針尾（現佐世保市）の鳳鳴書院で多くの子弟を育てていた.

[33] 近藤文庫については，拙稿「九州大学附属図書館所蔵「近藤文庫」について」（『中国哲学論集』35, 2009）参照. 旧蔵者の近藤畏斎（1832-1891）は碩水の親友で，鳳鳴書院の設立に参画した.

[34] 濱文庫については，中里見敬「濱文庫」『九州大学百年の宝物』（前掲）参照.

[35] このような個人文庫の意義については，拙稿「忘れられた文庫たち―中央図書館所蔵幕末明治期漢学者旧蔵書群―」（『九州大学附属図書館研究開発室年報』2008/2009，2009）参照.

[36] 支子文庫については，田村隆「支子文庫」『九州大学百年の宝物』（前掲）参照．支子文庫にも，多数の古文書・古地図類が含まれている.

[37] 江藤正澄の自筆稿本類については，菅波正人「江藤正澄自筆稿本集」『九州大学百年の宝物』（前掲）参照.

[38] URL：http://mars.lib.kyushu-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000002MANULIB